

病 防 第 131 号
平成 30 年 5 月 1 日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病 害 虫 名 : トルコギキョウ斑点病
- 2 病 原 菌 : *Pseudocercospora eustomatis*
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島中部
- 4 発 生 作 物 : トルコギキョウ

5 発生確認及び発生状況

平成 30 年 1 月、施設栽培のトルコギキョウで、下葉にすす状の斑点症状を呈する株が確認された(写真 1, 2)。沖縄県病害虫防除技術センターでの簡易同定後、農林水産省那覇植物防疫事務所において分生子及び分生子柄などの形態的特徴及び 18SrDNA-ITS 領域の遺伝子解析により、*P. eustomatis* による病害であることが明らかとなった。トルコギキョウにおける斑点病の発生は県内で初めてである。本病害は平成 20 年に福岡県で初めて確認された後、平成 28 年に高知県、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県、平成 29 年に和歌山県で発生が確認されている。

6 病 徴

はじめ、葉に 5 ～10mm 程度の退緑斑を生じる。その後、退緑斑部の葉裏に黒褐色のすす状の分生子が形成され、やがて葉は枯死する。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

糸状菌の 1 種で不完全菌類に属する。分生子は 0 ～ 8 個の隔壁を有し、倒棍棒形、淡オリーブ色～灰褐色を呈する(写真 3, 4)。生態や伝染環についての詳細は不明であるが、本病害は育苗ほおよび本ぼで発生し、被害葉上に形成される分生子により伝染、多湿条件で発生が助長される。

8 防除対策

(1) 病斑上に黒褐色のすす状の分生子が形成されると完全な防除は困難なので、発生初期(葉の退緑斑)を逃さないようにする。

- (2) 発病を確認した場合は、発病部位をすみやかに除去し、ほ場外に持ち出して感染源とならないように適切に処分する。
- (3) ほ場内が多湿条件になると感染を助長と考えられるので、ほ場内の換気に努める。湿度が高いと被害が大きくなるので、排水・通風をよくする。



写真1 圃場での発生状況



写真2 すず状病斑

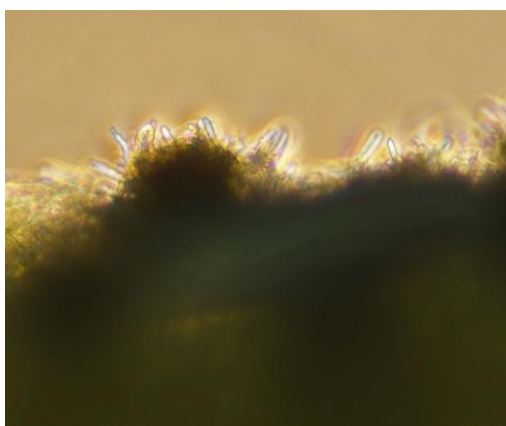


写真3 子座



写真4 分生子

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>